

2013年 明治学院大学

アジアの“わ”夏合宿活動報告書



2013年9月10日～12日

安藤百福記念 自然体験活動指導者養成センター

報告者：代表 大山友里

小諸合宿日記

1 日目

小諸合宿初日。朝 9 時半に新宿駅に集合し、(同日行われた)春学期の成績発表に一喜一憂しながら、10 時半発のバスに乗り、和気あいあいとした雰囲気以小諸へ向かいました。

途中のパーキングエリアで昼休憩をはさみながら、約 3 時間で小諸駅に到着。予定では、ここからリンゴ狩りをする場所である松井農園に行くために、また違うバスに乗って移動することになっていたのですが...バスがなかなか来ないというトラブルが発生。結局徒歩で行くことになりました。また、歩いているなか、度々「松井農園」という看板は目にするものの...なかなかその場所らしきものは見当たらず...それでも約 1 時間を経てようやくたどり着くことが出来ました。(徒歩で来たと聞いて、案内係のおじさんもビックリされていました。)



受付を済ました後、収穫する場所へと誘導してもらい、ついにリンゴ狩りスタート。農園内には、サンつがる、さんさ、あかね、といった全部で 3 種類のリンゴが実っており、それらを区別するために黄、緑、赤のテープがそれぞれの木々に付いていました。品種によって甘みと酸味のバランスが異なっていたので、僕たち一人ひとりの好みもさ

まざまでした。写真を撮ったり、リンゴをカゴいっぱい詰め込んだり、農園の人たちと話したりしているうちに、あっという間に時間は過ぎ去り、みんな十分に満喫したところでリンゴ狩りは終了。

帰りも当初はバスの予定でしたが、園内の方の紹介で市の観光タクシーを使い、宿泊先である安藤百福センターへ。

百福センターへは約 15 分ほどで到着。チェックインを済ませ、新しく、オシャレな館内に感動しながら、夕食を食べ、お風呂に入り、2 日目の水明児童館での発表のリハーサルをして 1 日目を終えました。

2日目



朝起きて外を眺めると、透き通った青空が目の前にとっても良い朝を迎えることができました。気温も涼しく、騒音もなく、空気もおいしい自然の中で外に出て“ぼー”と自然を楽しんでいるメンバーが何人もいました。みんなで起きる時間を決め、朝ご飯もそろって美味しくいただきました。

今日は午後から水明小学校の児童館で子供たちに韓国語、中国語、英語の三か国語にそれぞれ分かれて、子供たちに文化や言語・遊びなどを教えに行くために午前はその発表の準備を行いました。画用紙に見えやすいように字や絵をかいたり、それぞれ工夫し、リハーサルを繰り返し行いました。

お昼ご飯はタクシーの運転手の方に美味しいご飯屋さんを聞き、大人数でも入れて、水明小学校に近いパスタのお店へ行きました。お腹いっぱい食べた午後には、いよいよ発表です！みんなとても緊張していました。

始まる予定時間よりも早く行き、小諸市の職員の方たちや児童館の職員の方たちと挨拶を交わし、少しばかりお話もしました。あっという間に時間がたち、児童たちが続々と児童館に集まってきました。みんなで挨拶をし、自己紹介した後、それぞれ分かれて発表を行いました。韓国語では自分の名前をハングルで書いてみたり、中国語では中国で小さい子がよく遊ぶゲームをしたり、英語では発音の練習をしたりととても楽しい時間を過ごすことができました。とても短い時間でしたがみんな楽しんでくれたと思います。このような交流や発表を行うことで異文化理解や新しい知識を得るきっかけになり、これから進んでいくグローバル化に対応していく機会にもなったと思いました。児童と交流した後、お腹すいた私たちは近くのスーパーで食材を買い、餃子や麻婆豆腐などの中華料理を作って食べました。そして、反省会や打ち上げを行い小諸市での二日目を終えました。

3日目



小諸合宿の3日目は島崎藤村にゆかりのある懐古園を訪れました。ここには彼の著作、写真、実際に使用していたものが展示してある藤村記念館があり、明治学院と関わりのあった時代についての資料などに触れることができました。また、実際に彼が教壇をとっていた小諸義塾記念館では創設者それぞれの歴史や当時の教育方法を知ることができ、彼が英語を教えていたというところに明治学院大学の創設者へボンとの結びつきを感じました。

懐古園を散策している途中に訪れた展望台では都会では感じることのできない自然の壮大な風景を目にし、青々と生い茂る木々や都会では見ることのない虫を見るたび小諸市の自然の豊かさを最終日、身をもって再確認することができました。

懐古園を見終わった後、私たちは初日りんご狩りを行った松井農園でバーベキューを行いました。バーベキューに慣れていない私たちでしたが松井農園の方たちが丁寧に教えてくださったのでスムーズに行うことができました。また、バーベキューの際にりんごジュースやぶどう、野沢菜などの名産品を出していただきみんなでおいしく頂きました。帰りにはたくさん買ったおみやげを抱えながら一日目に食べておいしかったソフトクリームをみんなでまた食べてしまいました。最終日までこのように最高の思い出が作れたのは小諸の豊かな自然と温かい人々のおかげです。

小諸市合宿を終えて

小諸市という、東京や神奈川に住む私たちにとって、なかなか訪れる機会のない自然にあふれた場所です。すごした3日間はとても貴重な体験でいっぱいでした。1日目のリンゴ狩り体験、3日目の懐古園散策などももちろん有意義で楽しい時間でしたが、やはり私たちにとって一番印象深かったのは2日目の「小学生との交流会」です。私たちのサークルでは、基本的に大学生同士で交流会を開くことが多く、初めて子供を相手に催しを開くことになったため、異文化に興味を持ってもらうには、何をしたらよいだろうか...と日本人学生はもちろん留学生は特に試行錯誤しながら準備をし、当日を迎えました。なかなか自分たちの力だけではできない貴重な体験でありましたし、児童館で交流した小学生の1人でもこれをきっかけに異文化に興味を持った子が1人でもいれば...と思うと、とても嬉しいです。私自身にとってもサークル自体にも意義のある活動になったのではないかと思います。

合宿の3日間は小諸市の役員の方々、明治学院の担当の方々をはじめ、安藤百福センター、リンゴ農園、児童館の方々、子供たち、小諸市のみなさんの協力のおかげで、とても楽しい時間をすごすことができ、本当に感謝の思いでいっぱいです。小諸市と私たちアジアの“わ”、そして明治学院大学との関わりがこれからも続いていくように願っています。

提案

(1) 7年後の東京オリンピック開催にも乗じて、長期的な計画のもと海外の観光客を呼び込む計画を提案したい。方法としてはホームページやSNS,その他町の観光名称を多力国語に対応させ、外国人観光客、留学生、国際系団体などに積極的に観光ツアーを計画。

●果物狩りバスツアー

留学生の話聞いたところ、リンゴ狩りやぶどう狩りは海外にもあるものの、あまり行かない人が多いそうだ。しかし日本の農業は農薬の安全面や大規模ではない農業のため安心して参加できることもあり、日本のリンゴ狩りは参加したことがあるという生徒が多かった。そこで、海外の観光客に長野の特産の果物狩りバスツアーを計画することがよいと考える。時期としては果物狩りをメインと考えているので各果物（特にリンゴとぶどう）が旬の時期にするべきである。またその時、小諸の農園は駅から遠いということもあるので、個人よりも10名以上の団体のツアーを組むほうがマイクロバスなども活用できてよい。

●移動手段の改善

今回の合宿で小諸市を観光する際、私たちが一番困ったのは移動手段である。小諸市のことを何も知らない状態の人にとっては交通手段に関する有用な情報が少ないのが現状だと思う。実際に、私たちもこの計画を立てる際ホームページを見て調べたり、小諸を知る人に伺った情報を元にして小諸を訪れたが、当初予定したコミュニティバスの移動ではなくタクシーの移動がほとんどになった。主要な移動手段は車であることは周知の上だが、これから観光で多くの人を訪れることが見込まれるためにも移動手段あるいは交通状況の改善を必要とすると思う。初めて訪れる人にも快適にすごしてもらうにはやはり移動手段を改善すべきであると感じた。

(2) 学生には交流会やワークショップなどで交流を深める。

●ワークショップ・交流会

学生(小学生～大学生)には小諸の自然を生かしたワークショップや交流会がよいと考える。具体的には小学生、中学生は夏休みの課題で出される自由研究のための自然観察や虫取り、そして星がきれいだったということから天体観測などの案が挙げられる。

また、現在建設中のツリーハウス見学といった内容を含んでもいいと思う。その際の宿泊施設には安藤百福センターを使うといいのではないかと思う。なぜなら、自然の一角にたつログハウスのような施設がまさに合宿の目的を果たしており、自分たちでご飯を用意したり掃除をしたりする生活面の行動において自発性や協調性を仲間と見出すのに適した場所であると考えからである。以下、内容を簡単にまとめておく。

●小諸自然合宿(2泊3日程度)

内容：自然観察、虫とり、天体観測、ツリーハウスで遊ぼう、果物狩り、バーベキュー

宿泊場所：安藤百福センター

対象：小学生～中学生

支援：高校生・大学生スタッフ

山で自然を観察する際は、学生側もしくは小諸に自然に詳しい人がいればその方の協力のもと観察できるとよい。安藤百福センターは自然体験活動の指導者養成を行っている施設なので、実際に子供たちと触れて学んでもいいのではないかなと思う。また、専門的な知識を必要としないのであれば、自然合宿サポートスタッフと称した高校生や大学生などのスタッフが企画を支えて小学生・中学生の学びを支援してもらってもいいのではないかなと思う。(大学生の場合、子どもと遊ぶことを活動の中心としたサークルが存在する。)

また、安全面を考え小諸市側の協力も必要であると考え。この対象である学生は小諸の小学生・中学生でもよいし、あまり自然に触れることができない関東の子供たちもよいのではないだろうか考える。1)と同様に安藤百福センターは駅から遠いため団体のほうがよいと考えられる。合宿最終日には農園で果物狩りを行い、バーベキューをすることでより小諸の魅力を伝えられるのではないだろうか。

また、大人に対する呼び込みを期待するのであれば、安藤百福センター・トレイルを活用したツアーがよいのではないかなと思う。山登りに比べると気軽に参加できるものであるし、浅間連邦やハケ岳の展望を楽しみながら同時に自然や歴史を感じられるものであると考えるからである。また、ハイキングの疲れを安藤百福センターから歩いてすぐのあぐりの湯で癒してもらいたいと思う。